

2020年4月20日

学習院大学文学部 オンライン授業実施に向けてのメモ

文学部ワーキンググループ

前置きは省略致しますが、一つだけ述べさせていただきます。これらのメモとサンプルの授業資料は、何かを強制したり指示するものでは決してありません。「このようにして欲しい」というものすら示しておりません。ほとんどの先生には全く不要なものです。

自身で、もしくは他に教務課などから配られた資料（とても良くできた親切なものです）を参考にして、オンライン授業が可能な先生に関しましては、これまで配布された公文書の内容にも配慮をしつつ、自身のアイデアと自身のお使いになれるシステムで授業を行って頂ければ良い訳です。これらは全くもって不要です。

「どのようにしたらいいのか途方に暮れてしまう」「今までの情報から自分でやり方を選んで用意するというのは勘弁してもらいたい」といった先生だけ、これらをご活用下さい。

1 前提

- ・ 授業に要する時間は基本的には対面授業と同じ時間割通りの時間とします。月曜 1 限の授業であれば月曜日の 9:00~10:30 に教員も学生もパソコン又はスマホの前においてそれを操作しながら授業を行う又は受けるということです
- ・ ここで示す授業スタイルは、オンデマンド授業及び同時配信授業を折衷した形になります。チャットを利用した同時配信授業といったところです。覚えることが最小で、準備の時間もなるべく少なくすみ、また学生の通信環境にも優しいものを目指してこのような形に落ち着きました
- ・ 著作権関係の扱いは十分にお気を付け下さい。著作権には配慮した形で、これなら大丈夫ということでサンプルの授業は作られています（その為にきわどいように思われるものも使っておりますが、やり方の問題なのです）。とはいえ資料の情報流失などには、事前に学生たちに警告するなどして十分にお気を付けください。

2 授業のタイムスケジュール (1限の場合)

9:00～9:05	チャットによる教員の挨拶
9:05～9:20	各学生がスライド資料を見ながら音声データ1を聞く（もしくは文字データ1を熟読）
9:20～9:30	チャットによる質疑応答タイム
9:30～9:45	各学生がスライド資料を見ながら音声データ2を聞く（もしくは文字データ2を熟読）
9:45～9:55	チャットによる質疑応答タイム
9:55～10:10	各学生がスライド資料を見ながら音声データ3を聞く（もしくは文字データ3を熟読）
10:10～10:20	チャットによる質疑応答タイム
10:20～10:30	リアクションペーパー記入時間

3 具体的な授業の進め方

授業の開始時間には、学生たち全員にチャットに入ってもらいます。そしてチャットでの教員の挨拶をして頂き、最初の資料を読むまたは聞く時間に入る号令をかけて下さい。15分経ちましたらまたチャットで号令をかけ、チャットで質疑応答を始めます。それを三回繰り返し、最後にリアクションペーパーを書いて提出してもらって、一回の授業は終了です。

4 授業後の対応

リアクションペーパーのうち、質問や良いものをピックアップし（受講者の数にもよりますが5～10通くらいあれば十分でしょう）それをお使いのLMSの掲示板にあげて、教員がコメントを返します。酷いものや注意すべきものに関しては個人的にメールなどで注意するようにして掲示板には絶対に示さないようにして下さい。

5 出席

出席はお使いのLMSで簡単に取れると思われませんが、リアクションペーパーの提出を出席の代わりとするということでも可能だと思われれます。

6 用意する資料

事前に用意した以下の資料を学生たちに配っておかなければいけません。お使いのLMSで配ることができます。

- ・スライド資料
- ・音声データ1～3（もしくは文字データ1～3）

※スライド資料と文字データはPDFファイルで、音声データはmp3という形式でお作り下さい

7 チャットについて

WebClass にはチャットの機能がございますのでそれをお使いになれると思われます。manaba にはその機能は残念ながら無いようです。sinapse (<https://sinapse.app>) という無料で使えるサービスもありますが、あまり大学では使われていないようです。勿論、学習院ではサポートしておりません。

8 実際に授業が始まる前までに行うこと

- ・ 何らかの LMS の操作、およびチャットの操作に慣れる→特定の LMS については限定的かもしれませんが大学からのサポートがあるとのこと
- ・ パワーポイントやワードのデータを PDF に変換できるようになる→別紙参照
- ・ 音声データを作れるようになる（文字データで代替可能）→別紙参照

9 補足

繰り返しになりますが、「こうしろ」ということではございませんので、時間配分や資料の数などは適宜ご変更下さい。また Zoom を使って同じように行うこともできます。そうすれば事前の音声データ作成が不要になりますし、今までと同じような授業準備をするだけで済むと思われます。チャットも Zoom 上でできます。しかしそれは完全な同時配信授業になります。大学から「大容量のデータ送受信を必要とする授業方法をご遠慮ください」とありますが、その遠慮をすべき授業方法ということになってしまいます。

10 質問など

このメモに関する質問、もしくはもう少し手助けが欲しいというご要望は、文学部ワーキンググループのとりまとめ役の哲学科小島、もしくは、各学科のおられるワーキンググループメンバー（史学科佐藤先生、哲学科京谷先生、日本語日本文学科中上先生、英語英米文化学科荒木先生、ドイツ語圏文化学科伊藤先生、フランス語圏文化学科鈴木先生、心理学科林先生、教育学科飯沼先生）までお願い致します。

以 上

(文責：小島和男)